



# 凛として

長江プライド 「当たり前のことを当たり前」

令和4年4月28日(木) 第1号(特別号)



## 家庭・地域とつながり、「長江プライド」で誇りある学校に！

いよいよ令和4年度がはじまりました。

春暖の候、保護者の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。この度の人事異動により尾道市立御調中学校からこの4月に着任いたしました播磨です。前任者同様、よろしく願いいたします。

穏やかな春の風が心地よくそよぐ4月7日に64名の新入生を迎え、全校生徒200名による長江中学校の令和4年度がスタートしました。教職員一同、一丸となって、生徒一人一人が安心して生活でき、豊かな学びの実現を目指し、指導・支援をしていきます。

始業式でもお話したのですが、“長江プライド”を持ち「長江中学校で学んでよかった。長江中学校区で育ってよかった」と誇りに思える学校をめざし、全教職員が一丸となって教育を推進していきたいと思えます。

### 《4/6 始業式から》

・・・人間の営みは過去を引き受けて現在を生き、未来へつなげるものです。すなわち、長江中学校のよき校風と伝統、歴史性や自分自身の歴史(過去)を引き受けて未来へつなげていかなければなりません。そのためにも学校生活において今できていることができなくならないようにしましょう。「当たり前のことを当たり前にする」「頑張ることが格好いい」というところにプライド・誇りを持ち、日々の生活を充実させていってください。

そのためには、保護者の皆様や地域の方々のご理解とご協力があって、はじめて実現できるものと考えます。是非とも“魅力ある学校づくり”“郷土を愛し、郷土を誇りに思える”生徒の育成のためにお力添えをお願いいたします。

ドイツの教育学者であるシュプラングーの言葉をかりれば、子どもの郷土意識を育むためには、ただ単にそこに住んでいて生活を営んでいるというだけでなく、地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりの中で、内面的な成長をもたらせる必

要があるということになります。

「人間は、大地とその大地から生じたあらゆる自然的・精神的なものとともに、内面的に成長してきた場所にのみ、郷土をもつ」(Spranger 独)

内面的に成長をした子どもの姿として、芥川龍之介の短編「大川の水」に書かれている文章が参考になると思います。※大川：隅田川の別名(浅草付近より下流)

もし自分に「東京」のにおいを問う人があるならば、自分は大川のにおいと答えるのに何の躊躇(ちゅうちょ)もしないであろう。独りにおいのみではない。大川の水の色、大川の水のひびきは、我が愛する「東京」の色であり、声でなければならぬ。

自分は大川があるがゆえに「東京」を愛し、「東京」あるがゆえに、生活を愛するのである。(1912. 1)

長江中学校で学び、育ち、生活する私たち一人一人にとっての「大川の水」は何になるのでしょうか。一人一人がそれぞれ持つその答えを見つけるためにも、学校と家庭と地域が一体となって子どもに寄り添い、歩んでいければと思っています。

今年度も夢と志を抱き、学校教育目標にある「元気・感動・温もり」そして「プライド・誇り」をキーワードに小中連携を一層進めながら9年間を見通し、はじめある学校生活の中で、子どもたちが生き生きと活動する、輝く学校となるよう頑張ってみますので、この一年どうぞよろしくお願いいたします。

尾道市立長江中学校長 播磨 寛宗



## 64名の新入生を迎える



入学式での新入生の大きな声での返事やきちんとした態度、また、新入生を代表しての小林ララさんの誓いのことばは、とても立派なものでした。意気込みが感じられ、心強く思いました。本校のよき校風と伝統を立派に引き継ぐとともに、仲間や地域とつながり新たな伝統をスタートさせてくれるものと確信しました。誰もが気持ちよく過ごせる“凛”とした学校を共に創り上げていきましょう。君たちのすべてに大きな期待を寄せています。

「僕の前に道はない

僕の後ろに道はできる・・・」(高村光太郎)

